

【第12分科会】 自立と共生
研究課題 自立と共生の実現に向けた実践的な態度や能力を育む教育の推進

1 分科会の趣旨

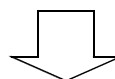
【研究課題の背景・現状】

◇「自立と共生」の社会づくりにおける学校の役割の大きさを自覚し、その実現に向けた実践的な態度や能力を育むため、校内体制の整備や関係機関等との連携などをより一層充実させていく必要がある。

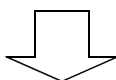
【研究課題解決の方向性】

◇子どもの自立や社会参加に向けた特別支援教育の推進と持続可能な社会の担い手を育む環境教育の推進について、具体的な方策と成果を明らかにする。

過去6大会の成果と
前年度の課題



背景・現状を踏まえて、具体的方策と成果を明らかにする



2 研究の視点

- (1) 子どもの自立や社会参加に向けた特別支援教育の推進
 - ・子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う。
 - ・校内支援体制の整備、研修の充実を図るとともに、関係機関との連携を強化し、障がいの有無に関わらず全ての子どもにとって必要な学習環境の整備に努める。
- (2) 持続可能な社会の担い手を育む環境教育の推進
 - ・学校外での活動を取り入れることや家庭や地域社会と連携して行われることが重要であることから、全教職員の一層の共通理解と協力体制づくりが肝要である。
 - ・全教育活動を通して、計画的・系統的に実施されるよう教育課程を編成するとともに、必要な教育資源の確保や関係機関との連携、指導方法の改善に努める。

3 「校長の果たすべき役割と指導性を究明する」ための協議の柱

- ① 子どもの自立や社会参加に向けた特別支援教育をどのように推進するか。
- ② 持続可能な社会の担い手を育む環境教育をどのように推進するか。

第12分科会 「自立と共生」 自立と共生の実現に向けた実践的な態度や能力を育む教育の推進

【視点①】 子どもの自立や社会参加に向けた特別支援教育の推進

「自立と社会参加に向けた特別支援教育の推進
～互いを理解し尊重し合う学校経営を推進する校長のリーダーシップ～」

広島県 尾道市立因北小学校 校長 茗加 幸代

1 趣 旨

学校においては、子どもたちが共に生活する中で、互いの人格と個性を尊重する教育が営まれている。とりわけ、障害のある子どもの自立や社会参加を目指した特別支援教育の充実が重要である。校長には、全教職員が「自立と共生」の社会づくりにおける特別支援教育について共通認識に立ち、一体となって推進していく校内指導體制の確立や、家庭・関係機関との連携等を進めるリーダーシップが必要である。

このような視点に立ち、本分科会では、互いを理解し尊重し合う学校経営を推進するための校長のリーダーシップについて明らかにしていく。

2 研究の概要

- (1) 特別支援教育を行うための体制整備
- (2) ユニバーサルデザインの授業改善と工夫
- (3) 一貫性のある支援とスムーズな接続

以上のような内容で、校長を含め教職員が特別支援教育の理念や指針を理解し、児童理解を深め、校内支援体制の充実や関係機関等との連携をどう図っていったかについて発表する。そして、障害の有無にかかわらず全ての子どもの自立と共生を目指していくために取組を捉え直し、校長としての役割や指導性について整理したい。

<メモ>

【発表内容に関すること】

【自己の実践等に関すること】

○有効な取組

○疑問・改善

◇「校長の役割と指導性」について、協議内容を簡潔にまとめると…【キーワードかキーセンテンスで】

☆参考キーワード

校内支援体制

関係機関との連携

教職員の意識改革

専門性の向上

ユニバーサルデザイン

校内研修

【視点②】 持続可能な社会の担い手を育む環境教育の推進

「持続可能な社会の担い手を育む環境教育を目指して ～仙台市の校長の在り方～」

宮城県 仙台市立生出小学校 校長 癸生川 義浩

1 趣 旨

学校における環境教育には、日々の取組の中に持続可能な社会の構築に向けた概念を取り入れ、問題解決に必要な能力・態度を身に付けるための工夫を継続していくことが求められている。また、学校全体としての取組が不可欠であり、学校外での活動や家庭や地域社会と連携が重要であることから全教職員の共通理解と協力体制づくりが肝要である。新たな環境教育の構想に目を向け教育活動を推進するにあたり、校長としての在り方等を明確にするため、本研究を進める。

2 研究の概要

- (1) 文献研究、及び仙台市の事業「杜の都のエコスクール活動」の分析
 - (2) 校長会アンケートから、環境教育に対する校長の意識や課題の分析
 - (3) 「環境に対する豊かな感受性の育成」、「環境への見方や考え方の育成」、「環境への実践力の育成」の3つの視点を生かして優れた実践をしている事例校3校の取材及び分析
- 以上の内容で、仙台市として取り組んできた環境教育の概要や全校長を対象として行ったアンケートの分析、及び特色ある実践を行っている事例校の取材を通して、環境教育を主導する校長としての求められる役割を明らかにする。

<メモ>

【発表内容に関すること】

【自己の実践等に関すること】

○有効な取組

○疑問・改善

◇「校長の役割と指導性」について、協議内容を簡潔にまとめると…【キーワードかキーセンテンスで】

☆参考キーワード

教育課程の工夫 地域・関係機関との連携 指導体制づくり 教科、領域との関連
主体的に取り組む態度

過去6大会の成果と前年度の課題

領域V 教育課題 第12分科会 自立と共生

<p>25 三重 大会</p>	<p>研究課題 自立を図り社会性を育てる教育の推進 視点1 児童の自立を図る特別支援教育の創造 視点2 豊かな未来の実現に貢献する力を育むキャリア教育の推進 <input type="checkbox"/>インクルーシブ教育推進に向け、子どもの主体的な取組を支援するという視点に立ったカリキュラムの見直しや教育環境の整備が重要である。 <input type="checkbox"/>相手の意見をしっかりと受け止めながら、自分の思いを正しく伝えたり、自分の立場を理解し、他者とのよりよい関係を築きながら、社会に参画したりできる能力を身に付けることが大切である。</p>	
<p>26 埼玉 大会</p>	<p>研究課題 自立と共生を図り実践的態度を育む教育の推進 視点1 子どもの自立を図る特別支援教育の推進 視点2 心結ぶ未来社会の実現に向けた実践的態度を育む環境教育等の推進 <input type="checkbox"/>校長として学校経営方針に特別支援教育の理念を関連付け、学校内外の取組の姿勢を表明した。 <input type="checkbox"/>校長の働きかけにより、全教職員が支援に携わる意識を備え、専門性を育成する体制整備を進められた。</p>	
<p>27 山口 大会</p>	<p>研究課題 自立と共生を図り実践的態度を育む教育の推進 視点1 子どもの自立を図る特別支援教育の推進 視点2 「持続可能な社会」を目指した環境教育等の推進 <input type="checkbox"/>課題意識の高揚と共有、主体的な取り組みへの賞賛と的確な指導、課題解決に結びつけてくれる人材の発掘などの取組により成果があがった。 <input type="checkbox"/>保護者、地域、関係機関との連携強化において、校長がリーダーシップを発揮することで、課題解決に迫ることができた。</p>	
<p>28 高知 大会</p>	<p>研究課題 自立と共生を図り、実践的態度や能力を育む教育の推進 視点1 子どもの自立を図る特別支援教育の推進 視点2 「持続可能な社会」の担い手を育む環境教育等の推進 <input type="checkbox"/>校長が特別支援教育について積極的に研修を積み、校長の考え方を全教職員に示したり、校長自らが関係機関や取組に関わったりすることで、特別支援教育の体制づくりが進んだ。 <input type="checkbox"/>地域の素材や人材を有効に活用し、豊かな体験活動を仕組むことで、自然や環境問題への関心が高まり、持続可能な社会の構築に向けての見方や考え方を伸ばすことができた。</p>	
<p>29 佐賀 大会</p>	<p>研究課題 自立と共生を図り実践的態度や能力を育む教育の推進 視点1 子どもの自立を図る特別支援教育の推進 視点2 「持続可能な社会」の実現に向けた行動力を育む環境教育等の推進 <input type="checkbox"/>校長が指導性を発揮し、教職員の指導力向上を図ることで組織の協働性が高まり、さらなる研修やチーム支援会議の運用、外部機関との連携による支援を要する児童と保護者に対する支援体制充実につながった。 <input type="checkbox"/>地域と学校の願いを共有し、地域・自然環境や人材を活用した環境教育を工夫することで、学校の果たすべき役割を再認識することができた。</p>	
<p>30 北海道 大会</p>	<p>研究課題 自立や共生の実現に向けた特別支援教育と環境教育の推進における校長の在り方 視点1 子どもの自立を図る特別支援教育の推進 視点2 持続可能な社会の担い手を育み、教科・領域との関連を図った環境教育の推進</p>	
	<p>成 果</p> <p><input type="checkbox"/>特別支援教コーディネーターを中心とした取組や校内通級体制などの組織的に校内体制が進められていることや各関係機関との連携も進んでいる。 <input type="checkbox"/>持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成というねらいをもち、明確に活動を位置付けること、社会教育のつながりの中で継続的に展開していくこと、地域の実態に対応した課題からの取組が重要であることが確認できた。</p>	<p>課 題</p> <p>■教育予算を含めた行政の一層の支援や、教育的ニーズに対応しながら連続性を高め、組織的で柔軟な仕組みを整備することが必要である。 ■地域の特性を生かしたつながりをもった環境教育計画をいかに充実させるか、保護者、地域との共有の在り方や取組の評価をどのように進めるかなど、一層の工夫が必要である。</p>

(各大会の集録より一部引用)